

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2670100078
法人名	社会福祉法人 七野会
事業所名	グループホーム はつね
所在地	京都市北区小山下初音町24 カマラーダ・ドーモ 1F (電話) 075-494-3022

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成21年7月30日	評価確定日	平成21年9月25日

## 【情報提供票より】(平成 21年 6月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 地下1階付3階建ての 地下1階部分
------	----------------------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	22,500 円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 600,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要( 6月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上京病院・かも川診療所
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人七野会が運営する当該ホームは、商店が立ち並ぶマンションの1階にあります。法人理念に加え「その人らしく暮らし続けることを大切に」「地域と共に」と謳い、職員同士の連携を取りながら、利用者があるがままの日々を過ごせるように心がけています。思いの実現に向け高い理想があり、一歩ずつ実現に努め、1泊旅行を毎年の行事に位置付けたり、マンション住民との交流や商店の方たちと積極的な近所付き合いを展開しています。地域交流の一環として「ふれあいサロン」を毎月開催し、地域の高齢者にとっては参加が外出や認知症に気付く機会となり、ホームは地域にとって大きな存在となっています。10周年を迎え地域と共に高齢者の情報の発信源になるべく努められています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題となっていた地域の方との交流では、ホームに来てもらえるように取り組んでいます。マンションの方がボランティアで来てくださったり、ホーム10周年記念には近隣の方や商店街の方が多く参加してくださいました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、職員一人ひとりが記入し読み合わせや話し合った内容を管理者がまとめました。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者や家族、民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームの活動や行事予定を報告し、参加者との意見交換をしています。今後、もっと地域の方々に参加してもらえるように考えています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	法人でアンケートを実施するなど意見の収集に努めています。来訪時や運営推進会議、カンファレンスなどに参加があり話しやすい雰囲気を作り意見を聞いています。出された意見などには、素早く対応するように心がけています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会やマンションの管理組合に加入して地域の行事に参加しています。利用者は個々に小学校のPTAの賛助会員となって会費を支払い運動会や催しに参加しています。ホームで開催している「ふれあいサロン」や10周年記念に多くの参加があり、積極的に地域との交流をなされています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念は、「私たちは住み慣れた地域で尊厳をもって暮らし続ける事を支援します」と謳い、受けて「その人らしく」「地域と共に」の2つをホームの柱と位置付け理念としています。開設時より地域の中の1軒家の暮らしと考えられています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングに利用者が毛筆で書かれた理念を掲示しています。職員は、理念を意識しながら日々理念に基づいたケアが出来ているか職員会議で振り返り話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	マンションの管理組合や町内会に加入し、地域行事参加や商店街での買い物、マンションの大掃除や餅つきなど日々豊かな交流が育まれています。地域連携の思いをもとにふれあいサロンを開催し、年々参加者が増え地域貢献の役割を担っています。また、利用者個々が小学校のPTAの賛助会員になり会費を納め運動会などに参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、全職員に白紙の用紙を配布記入の上、読み合わせや話し合いを持ち管理者がまとめ、再度職員会議で話し合いました。前回の外部評価を受けて、地域の方が気軽にホームに立ち寄ってもらえるように地域ボランティアに来てもらったり、10周年を迎える祝賀会には、多くの方に呼びかけ、旧利用者家族、旧職員も含め多くの方に参加してもらうなど改善に努めています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加する運営推進会議を2か月に1回、開催しています。ホームから活動・行事予定などを報告し参加者との意見交換をしています。今後、もっと地域の方々にも参加してもらえるように考えています。		

グループホームはつね

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議録や事業報告を区役所に持参しています。また、介護相談員の受け入れや運営推進会議に参加してもらえるように促していこうと考えています。	○	市町村との連携という意味では、地域に根差した「ふれあいサロン」の取り組みを市や区役所の方にもより深く知ってもらう機会ととらえ、参加を促すなどされてはいかがでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時や毎月の手紙で利用者の時々の様子を伝え、遠方の家族には電話でも報告をしています。金銭管理は、預かり金対応で管理状況と領収書を毎月の請求書と一緒に送付しています。また、ホーム長からのコメントや利用者の写真を載せたホームの季刊誌「ただいま」を発行しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に出来るだけ意見や苦情を聞き取るように努めており、運営推進会議にも家族の参加があり、意見を聞いています。また、法人でアンケートを実施するなど意見の収集に努めています。意見や要望が出た時には、速やかに対応するように心がけています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人は、福利厚生の実現に努め、新年会や職員間の交流が出来るようにしています。管理者は、職員がケアに悩む様子が見られた場合など、話を聞く時間を設けアドバイスをしています。新任職員には、現場役責者から3か月めのヒアリングを行ない、ストレス管理に努め、現場では現任職員に付いて少しずつ馴染んでもらえるようにしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の新人研修や入職3年目までの研修計画があり、職員は個々に目標を定め研修計画を立てて参加しています。外部研修では、該当者や参加希望を募り参加しています。参加後は資料を回覧し伝達研修をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府認知症グループホーム協議会の1泊研修に職員を派遣し、意見交換や交流をしています。府下のグループホームから職員が多数参加し、「思いっきり話そう」を合言葉に「ターミナルケア」「記録」とテーマを決めて研修やバーベキュー等を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には出来るだけ家族や利用者に見学に来てもらっています。入居後は、訪問時の情報をもとに、寄り添いケアをしています。時には、ホームと自宅を歩き来されたり、入居初日に家族が泊まれるなど、利用者が馴染めるよう工夫をしつつ安心して入居に繋げています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や梅酒作り、カーテン作りなどの裁縫、洗濯の干し方など教えてもらっています。人との付き合いの仕方や社会常識など多くの事を学び支え合う関係づくりに努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式やケアチェック表を利用しながらアセスメントをしています。日々の会話や表情を見ながら汲み取れるようにしており、職員間で情報交換をしながら要望に結び付けています。今後、家族にも希望や思いが聞けるように工夫を重ねる意向です。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の担当制を取り入れながら、家族の参加を依頼し、担当者会議を開き一人ひとりに合わせた介護計画を立てています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録に毎日モニタリングの記載が行われており、記録を参考に1か月ごとにも総評としてのモニタリングを行い、3か月ごとにカンファレンスを開催し見直しを行っています。今後に向けて、毎日のモニタリングの記録方法について検討しています。	○	記録の記載は、細かくされていますが、次のケアに繋がるような記録になることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と連携した通院介助や喫茶店、行きつけの美容院、買い物など、時々々の希望に柔軟に対応しています。利用者の意向を理解し実現に努めており、自宅の掃除に帰ったり、身内のお葬式などにも一緒に参列するなどの支援をしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、利用者や家族の意向に沿ってかかりつけ医を決めています。内科と外科のかかりつけ医の往診が月に1回ずつあり24時間連携が取れています。また、下肢筋力低下を防ぐため鍼灸院を週に2回、利用されている利用者もおられます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について入居前に家族や利用者の希望を聞き、事業所の看取りの姿勢を説明しています。今までもターミナルケアの経験があり、重度化の状況において再度、家族や医師、訪問看護、薬剤師などと話し合い意向に沿った支援ができるようにしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は鍵の掛かるロッカーに保管しています。言葉遣いについては、倫理研修などで学びあい、慣れ慣れしくならないように、大声での声かけなどに対して意識し、職員間で注意し合うようにしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課として、ラジオ体操を一緒にしていますが、起床から睡眠まで一人ひとりのペースやリズムに合わせた支援を心がけています。また、起床が皆とずれた時には、居室で食事を摂ってもらったり、職員から利用者へさりげなく声掛けもしながら希望に沿った日々を過ごされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	担当職員が利用者に食べたいものを聞きながら献立を決め買物に行っています。野菜の皮むきや下ごしらえ、味見など利用者と共に準備し、配膳など出来る事は手伝って頂いています。野菜が多く摂れるように、見た目にも美しくおいしそうに工夫をし、職員と共に会話を楽しみながら食事の時間を過ごしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日朝から20時ごろまでいつでも入れる体制にあります。ほとんどの利用者が毎日入浴されており、状態に応じてシャワー浴や足浴、清拭などにも対応しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除やリビングの拭き掃除、食器洗い、洗濯物を干したりたたんだり等利用者同士で順番を決めた役割があります。日々の散歩や喫茶店に出かけたり、同窓会への出席や南座での観劇など思いの実現に出来る限り応じる支援を行っています。毎年の1泊旅行に家族参加と共に出かけ楽しみ事となっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の重度化に伴い外出を希望される利用者は少なくなってきましたが、喫茶店や買い物、外食、季節に応じたお花見など楽しみに外出をしています。歩ける方は歩いて、車椅子の方には車で外出の支援をしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族の理解や了解を得て鍵をかけないケアをしています。出かけたいたい様子を感じたらさりげなく寄り添い一緒に出かけています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の立会いのもとに、避難訓練をしています。2階のディサービスと一緒にマンションの方にも声掛けをしながら消火器の使い方などを含めた避難訓練を行っており、近々夜間想定訓練を行う予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な利用者の水分量を記録し、利用者の咀嚼・嚥下状態に応じた食事を提供しています。多くの新鮮な野菜とバランスの良い食事の提供を心がけています。毎月、体重測定をして健康管理の目安にもしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの床や壁の腰板は木で設えており、床暖房になっています。トイレや洗面台を中心に回廊になっています。電燈は暖かく落ち着いた採光を心がけ、職員の庭で咲いていた花がいろいろな所に生けられ季節が感じられます。また、テレビ前には、ソファを置きゆっくりと寛げるようにしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで大切にしていた鏡台やタンス、えもんかけ、スタンド、写真、ミシン、仏壇など家族と相談して持ち込んでもらっています。カーペットをひいたり、畳部屋に布団で休まれるなど思い思いの居室づくりがなされています。		